

参 考 资 料

「ふくい2030年の姿」に関するアンケート調査結果

県政マーケティング事業（アンケート調査）

- 調査対象 : 県内全域から電話帳による無作為抽出（市町村の世帯割で2,000人を抽出）
- 調査方法 : アンケート調査票の送付および回収は郵送
- 調査日 : 平成16年12月27日～平成17年2月8日
- 回答者数 : 1,039人（回収率51.2%）
- 回答者内訳 : 以下のとおり

(単位:人)

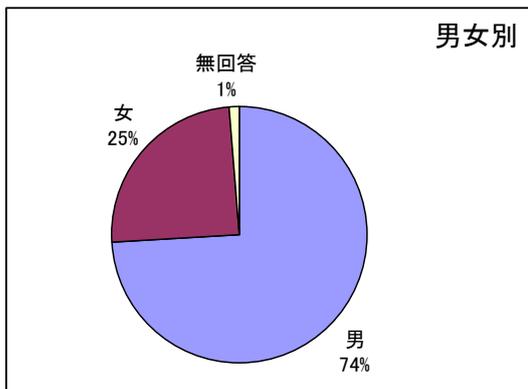
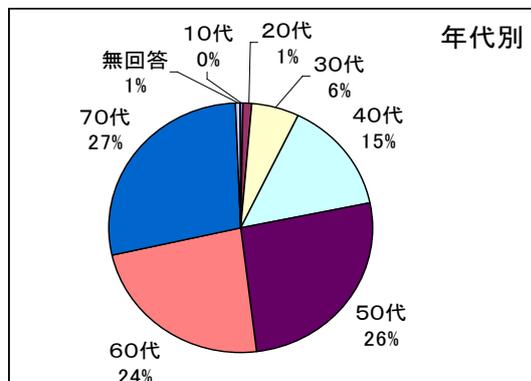
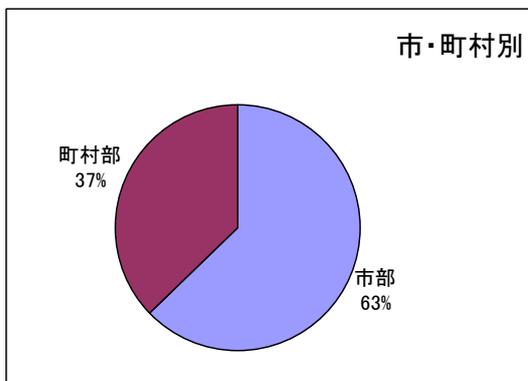
福井市	272	敦賀市	69	武生市	74	小浜市	51	大野市	44	勝山市	33
鯖江市	71	あわら市	39	美山町	12	松岡町	17	永平寺町	9	上志比村	10
和泉村	7	三国町	33	丸岡町	39	春江町	31	坂井町	19	今立町	17
池田町	10	南条町	15	今庄町	13	河野村	10	朝日町	10	宮崎村	9
越廼村	4	越前町	9	織田町	10	清水町	13	三方町	15	美浜町	18
上中町	15	名田庄村	9	高浜町	17	大飯町	15			合計	1,039

(単位:人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	合計
2	11	63	152	270	245	289	7	1,039
0.2%	1.1%	6.1%	14.6%	26.0%	23.6%	27.8%	0.7%	100.0%

(単位:人)

男	女	無回答	合計
770	255	14	1,039
74.1%	24.5%	1.4%	100.0%



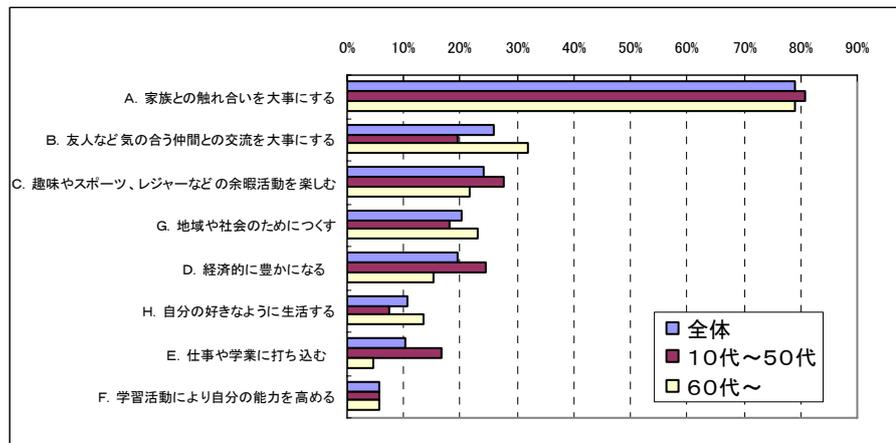
問1 あなたが、日々の生活の中で「大切にしたいと思っていること」はどのようなことですか。〔当てはまるものを2つ選んでください。〕

- 答** A. 家族との触れ合いを大事にする (820) B. 友人など気の合う仲間との交流を大事にする (267)
 C. 趣味やスポーツ、レジャーなどの余暇活動を楽しむ (251) D. 経済的に豊かになる (203)
 E. 仕事や学業に打ち込む (107) F. 学習活動により自分の能力を高める (59)
 G. 地域や社会のためにつくす (211) H. 自分の好きなように生活する (109)

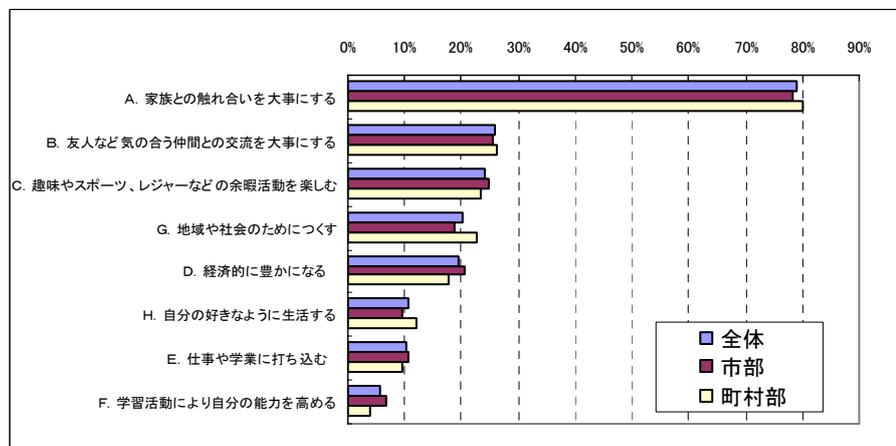
※ 上記カッコ内は、各項目の回答者数 (問2以降も同様)

※ 下記グラフの割合は、「各項目の回答者数/回答者総数 (n=1,039)」 (問2以降も同様)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「家族とのふれあい」を大切にしたいとする人が、世代や地域によらず群を抜いて多く、約8割に達する。次いで、「気の合う仲間との交流」、「余暇活動を楽しむ」と続く。

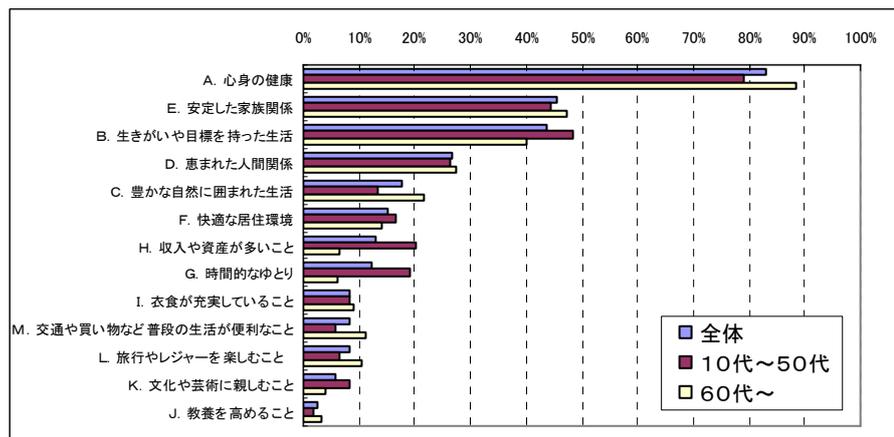
■ 各論

- ・ 年代別にみると、50代以下は「余暇活動」、「経済的な豊かさ」、「仕事や学業」を大切にしている傾向が強く、一方、60代以上は「気の合う仲間との交流」、「地域や社会への貢献」を大切にしている傾向が強くなっている。
- ・ 地域別には、差異はほとんどみられない。

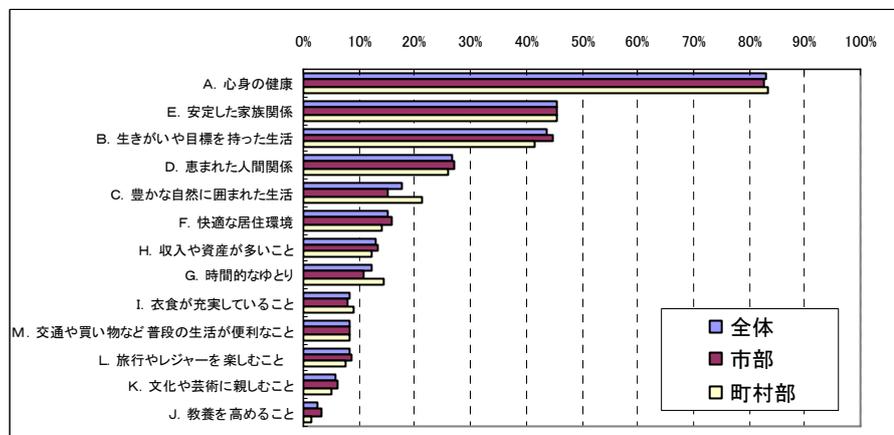
問2 あなたにとって、「豊かさ」とはどのようなことですか。〔当てはまるものを2つ選んでください。〕

- 答** A. 心身の健康 (863) B. 生きがいや目標を持った生活 (452) C. 豊かな自然に囲まれた生活 (182)
 D. 恵まれた人間関係 (278) E. 安定した家族関係 (473) F. 快適な居住環境 (157)
 G. 時間的なゆとり (127) H. 収入や資産が多いこと (134) I. 衣食が充実していること (88)
 J. 教養を高めること (27) K. 文化や芸術に親しむこと (61) L. 旅行やレジャーを楽しむこと (86)
 M. 交通や買い物など普段の生活が便利なこと (87)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「心身の健康」に豊かさを感じる人が、世代や地域によらず群を抜いて多く、約8割に達する。次いで、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」と続く。

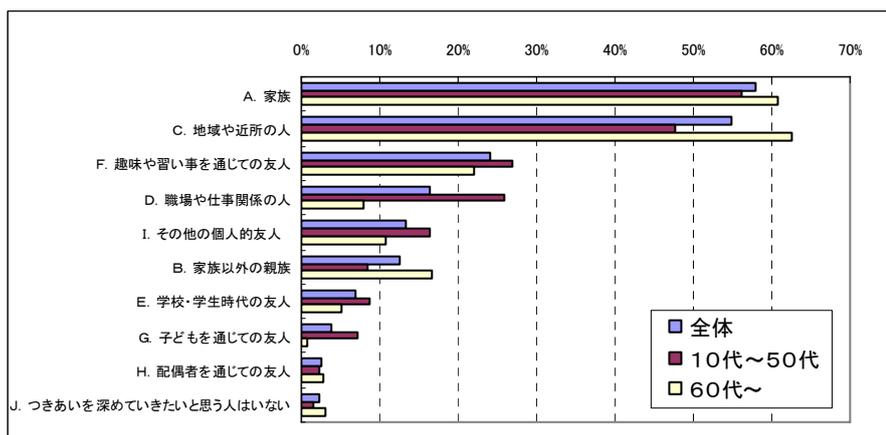
■ 各論

- ・ 年代別にみると、50代以下は「生きがいや目標を持った生活」、「収入や資産が多い」、「時間的なゆとり」に豊かさを感じる人の割合が高く、一方、60代以上は「心身の健康」、「豊かな自然に囲まれた生活」、「普段の生活が便利」に豊かさを感じる人の割合が高くなっている。
- ・ 地域別にみると、市部では「生きがいや目標を持った生活」、「快適な住環境」の割合が高く、一方、町村部では「豊かな自然に囲まれた生活」、「時間的なゆとり」の割合が高くなっている。

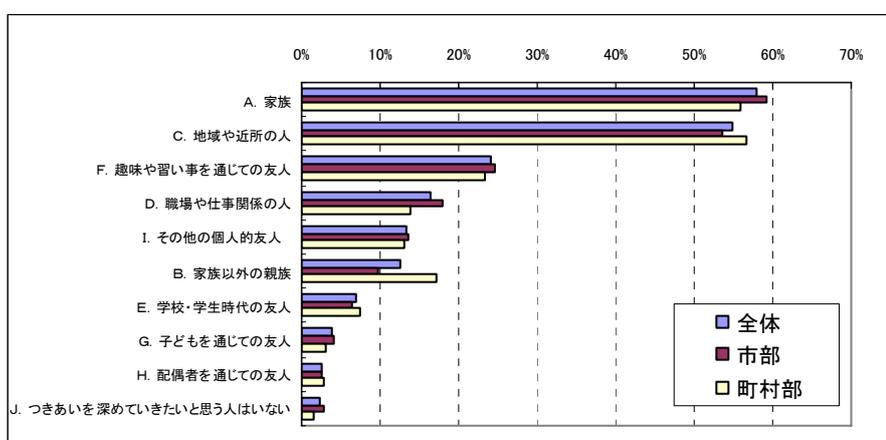
問3 あなたが、今後、「どなたと人間関係やつきあいを深めていきたい」と思っていますか。
〔当てはまるものを2つ選んでください。〕

- 答** A. 家族 (603) B. 家族以外の親族 (130) C. 地域や近所の人 (569)
D. 職場や仕事関係の人 (171) E. 学校・学生時代の友人 (71)
F. 趣味や習い事を通じての友人 (250) G. 子どもを通じての友人 (39)
H. 配偶者を通じての友人 (27) I. その他の個人的友人 (139) J. いない (25)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「家族」、「地域や近所の人」との人間関係やつながりを求める人が5割以上を占める。次いで、「趣味や習い事を通じての友人」が続く。

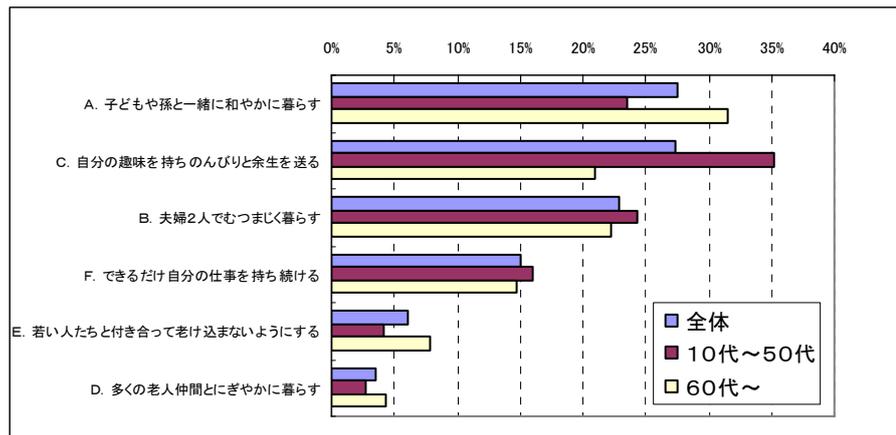
■ 各論

- ・ 年代別にみると、50代以下は「趣味や習い事を通じての友人」、「職場や仕事関係の人」の割合が高く、一方、60代以上は「家族」、「地域や近所の人」、「家族以外の親族」の割合が高くなっている。
- ・ 地域別にみると、町村部では「家族以外の親族」の割合が特に高くなっている。

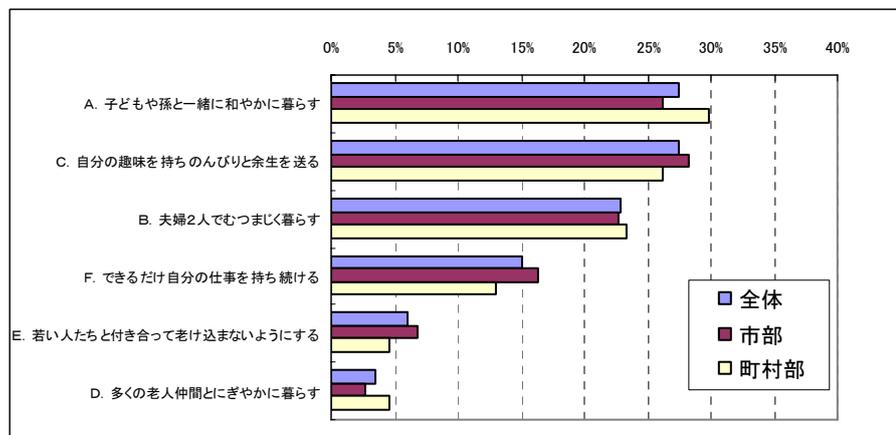
問4 あなたは、自分の「老後をどのように過ごしたい」と思っていますか。
 [最も当てはまるものを1つだけ選んでください。]

- 答**
- A. 子どもや孫と一緒に和やかに暮らす (286)
 - B. 夫婦2人でむつまじく暮らす (238)
 - C. 自分の趣味を持ちのんびりと余生を送る (285)
 - D. 多くの老人仲間とにぎやかに暮らす (36)
 - E. 若い人たちと付き合い老け込まないようにする (63)
 - F. できるだけ自分の仕事をもち続ける (157)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「子どもや孫と和やかに暮らす」、「自分の趣味を持ちのんびり余生を送る」がともに4分の1以上を占めている。次いで、「夫婦むつまじく暮らす」が続く。

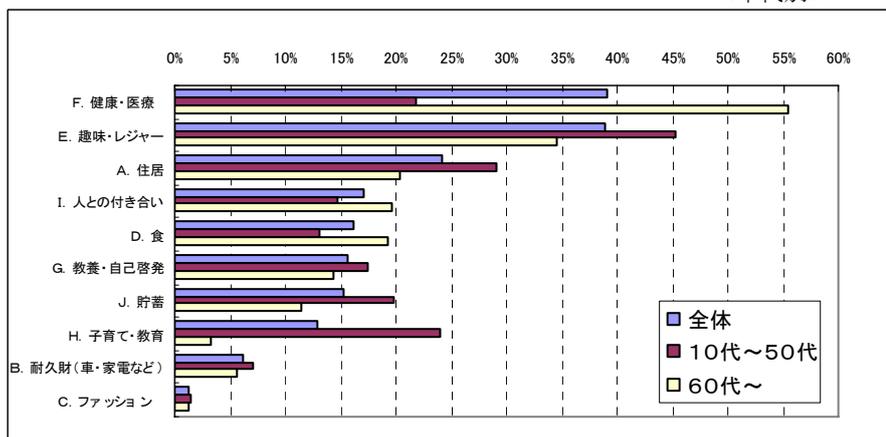
■ 各論

- ・ 年代別にみると、50代以下では「自分の趣味を持ちのんびり余生を送る」と回答した人の割合が非常に高く、一方、60代以上では「子どもや孫と和やかに暮らす」の割合が高くなっている。
- ・ 地域別にみると、市部で「できるだけ自分の仕事をもち続ける」、「若い人たちと付き合い老け込まないようにする」の割合が高く、一方、町村部では「子どもや孫と和やかに暮らす」の割合が高くなっている。

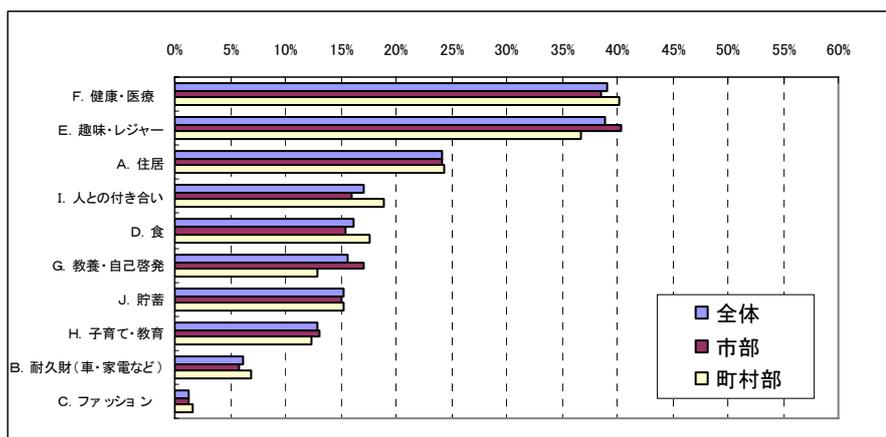
問5 あなたは、今後、「何に積極的にお金を遣いたい」と思っていますか。
〔当てはまるものを2つ選んでください。〕

- 答** A. 住居 (252) B. 耐久財 (車・家電など) (65) C. ファッション (14) D. 食 (169)
E. 趣味・レジャー (405) F. 健康・医療 (407) G. 教養・自己啓発 (162)
H. 子育て・教育 (134) I. 人との付き合い (178) J. 貯蓄 (158)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「健康・医療」、「趣味・レジャー」にお金を遣いたい人の割合が約4割を占めている。次いで、「住居」の割合が高くなっている。
- ・ また、「耐久財」を購入したいと考える人の割合は、時代を反映してか低くなっている。

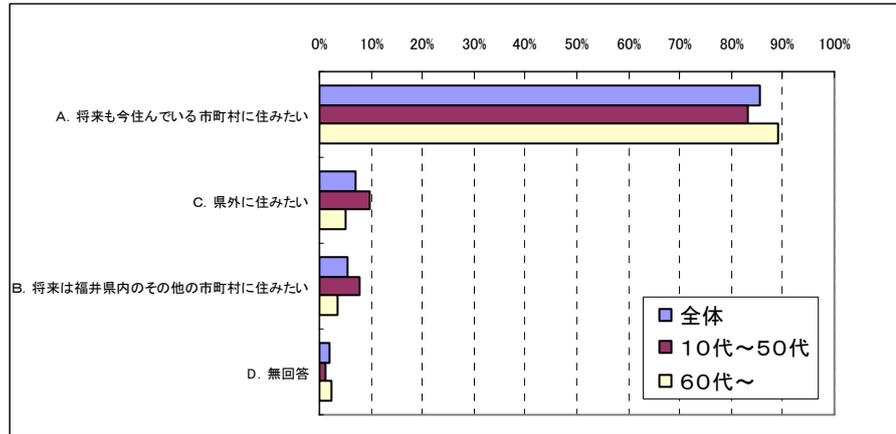
■ 各論

- ・ 年代別にみると、大きなばらつきがある。50代以下は「趣味・レジャー」、「住居」、「子育て・教育」、「貯蓄」と回答した人の割合が高く、一方、60代以上では「健康・医療」、「人との付き合い」、「食」の割合が50代以下に比べ相当高くなっている。
- ・ 地域別にみると、市部で「趣味・レジャー」、「教養・自己啓発」の割合が高く、一方、町村部では「人との付き合い」、「食」の割合が高くなっている。

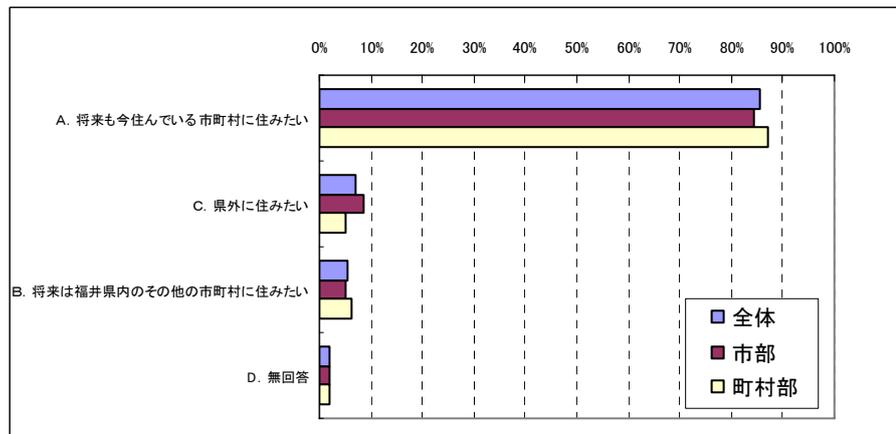
問6 あなたは、「将来の居住」について今どのような意向をお持ちですか。
〔当てはまるものを1つだけ選んでください。〕

- 答**
- A. 将来も今住んでいる市町村に住みたい (888)
 - B. 将来は福井県内のその他の市町村に住みたい (56)
 - C. 県外に住みたい (75)

<年代別>



<市・町村別>



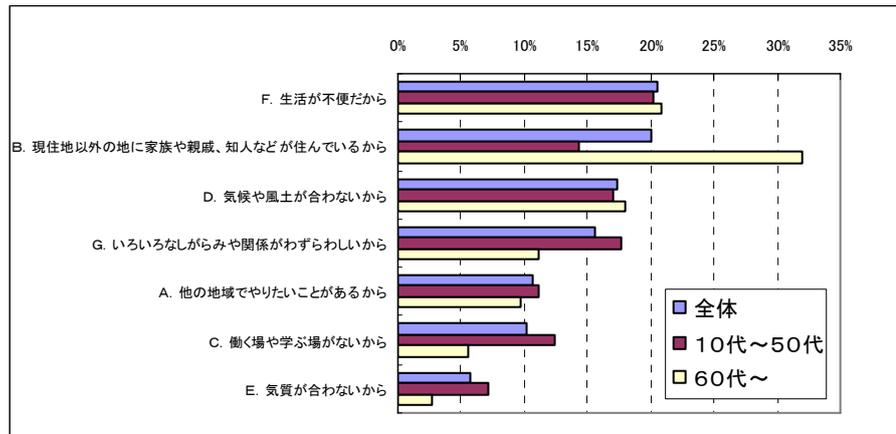
- 総論
 - ・ 将来も「同じ市町村に住みたい」と考えている人の割合が8割以上を占め、「県内その他の市町村に住みたい」とする人を合わせると9割を超えている。
- 各論
 - ・ 年代別、地域別にみても、この傾向に大きな差異は認められない。

問7 問6で、BまたはCと答えた方のみお答えください。「現住地に住みたくない理由」は何ですか。〔当てはまるものを2つ選んでください。〕

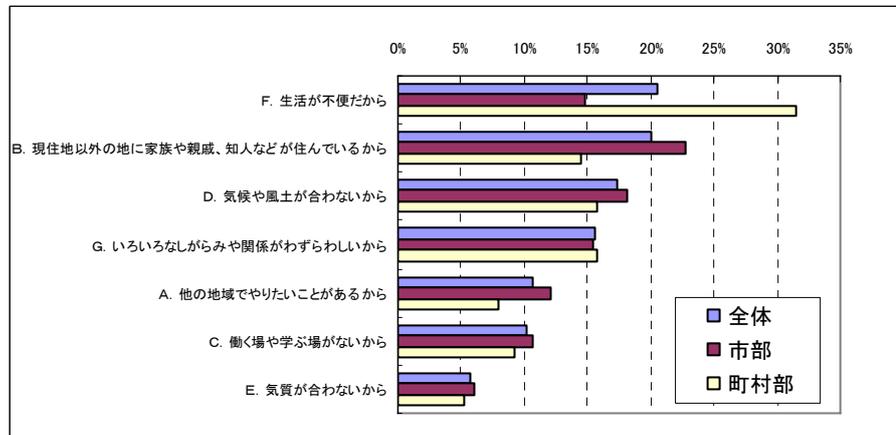
答

- A. 他の地域でやりたいことがあるから (24)
- B. 現住地以外の地に家族や親戚、知人などが住んでいるから (45)
- C. 働く場や学ぶ場がないから (23)
- D. 気候や風土が合わないから (39)
- E. 気質が合わないから (13)
- F. 生活が不便だから (46)
- G. いろいろなしがらみや関係がわずらわしいから (35)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「生活が不便」、「他の地域に家族や親戚などが住む」ことを理由にあげる人の割合が高くなっている。

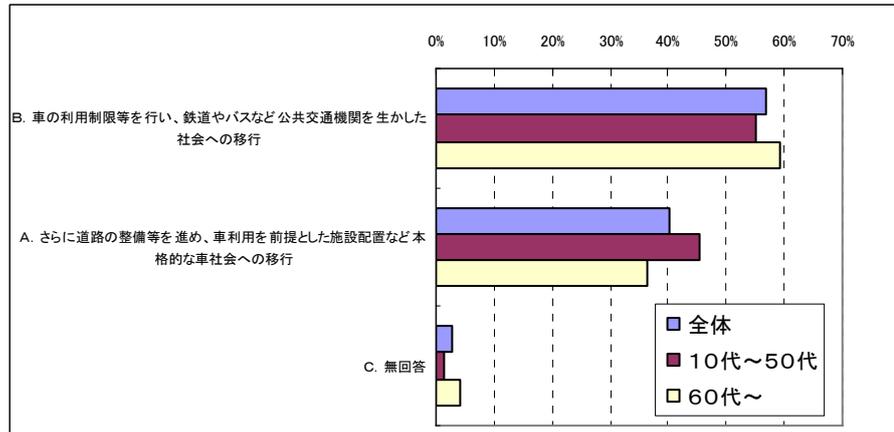
■ 各論

- ・ 年代別にみると、60台以上では「他の地域に家族や親戚などが住む」ことを理由に転居を希望している。一方、50代以下では「しがらみや関係がわずらわしい」、「働く場や学ぶ場がない」ことを理由に挙げる人の割合が高くなっている。
- ・ 地域別にみると、町村部では「生活の不便さ」を理由に挙げる人の割合が圧倒的に高くなっている。

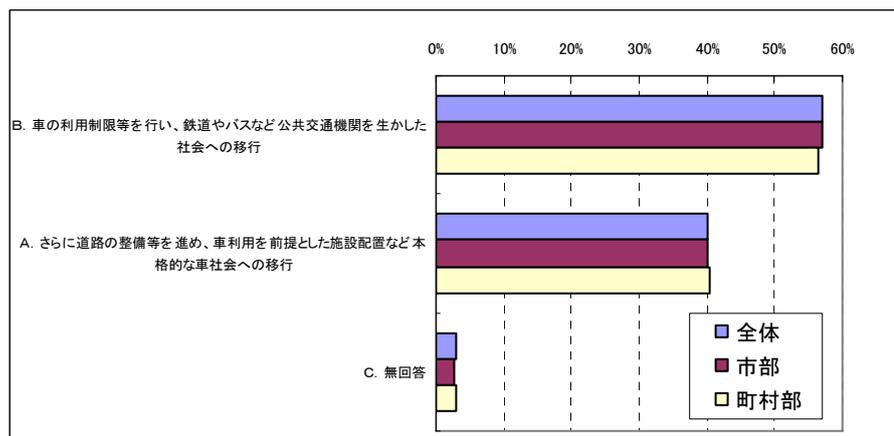
問8 あなたは、将来の「ふくい地域交通」はどのようなのが望ましいと思っていますか。

- 答** A. さらに道路の整備等を進め、車利用を前提とした施設配置など本格的な車社会への移行 (418)
 B. 車の利用制限等を行い、鉄道やバスなど公共交通機関を生かした社会への移行 (591)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「公共交通機関を生かした社会への移行」を望む声が57%、「本格的な車社会への移行」を望む声が40%となっている。

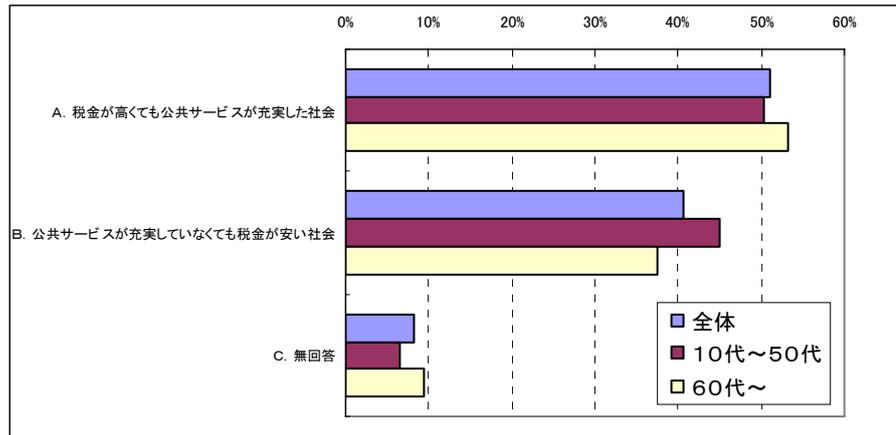
■ 各論

- ・ 年代別にみると、50代以下は「本格的な車社会への移行」を望む声の割合が60代以上よりも高くなっている。
- ・ 地域別にみると、大きな差異は認められない。

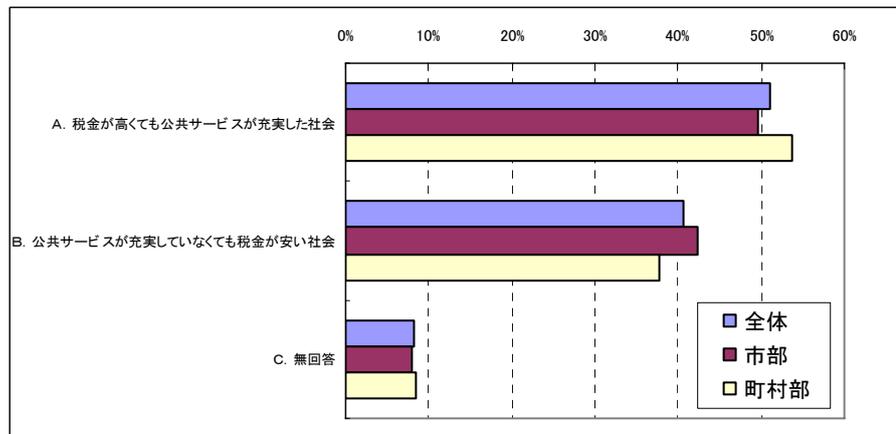
問9 あなたは、将来の「税金と公共サービス（福祉や教育など）のあり方」はどのようになるのが望ましいと思っていますか。

- 答** A. 税金が高くて公共サービスが充実した社会（531）
 B. 公共サービスが充実していても税金が安い社会（423）

<年代別>



<市・町村別>



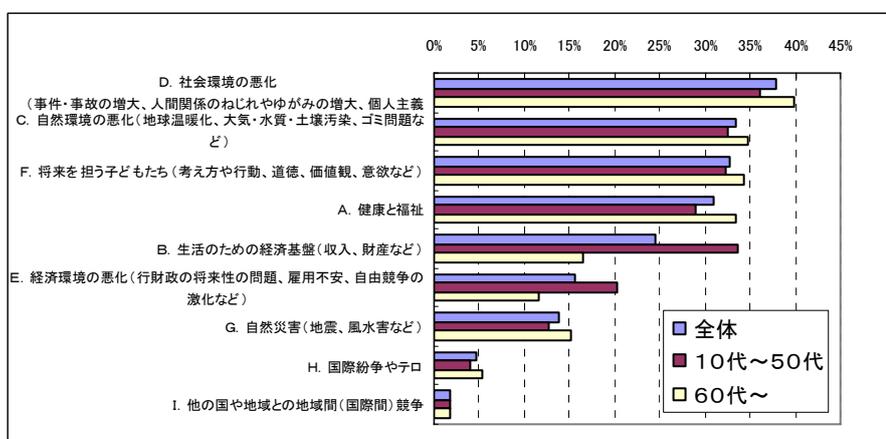
- 総論
 - ・ 「税金が高くて公共サービスが充実した社会」を望む声が過半数を超えている。
- 各論
 - ・ 年代別、地域別にみると、50台以下と市部で「税金が安い社会」を望む声の割合が60代以上、町村部よりも高くなっている。

問10 あなたが、2030年を見据えた将来について、「不安を感じること」はどのようなことですか。〔当てはまるものを2つ選んでください。〕

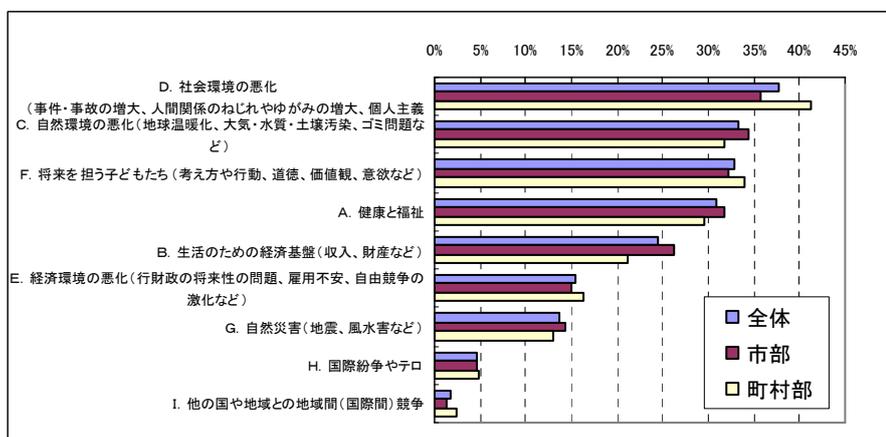
答

- A. 健康と福祉 (322)
- B. 生活のための経済基盤 (収入、財産など) (254)
- C. 自然環境の悪化 (地球温暖化、大気・水質・土壌汚染、ゴミ問題など) (347)
- D. 社会環境の悪化 (事件・事故の増大、人間関係のねじれやゆがみの増大、個人主義の増大など) (393)
- E. 経済環境の悪化 (行財政の将来性の問題、雇用不安、自由競争の激化など) (161)
- F. 将来を担う子どもたち (考え方や行動、道徳、価値観、意欲など) (341)
- G. 自然災害 (地震、風水害など) (143)
- H. 国際紛争やテロ (49)
- I. 他の国や地域との地域間 (国際間) 競争 (18)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「社会環境の悪化」、「自然環境の悪化」、「将来を担う子どもたち」への不安感を持つ人の割合が高くなっている。

■ 各論

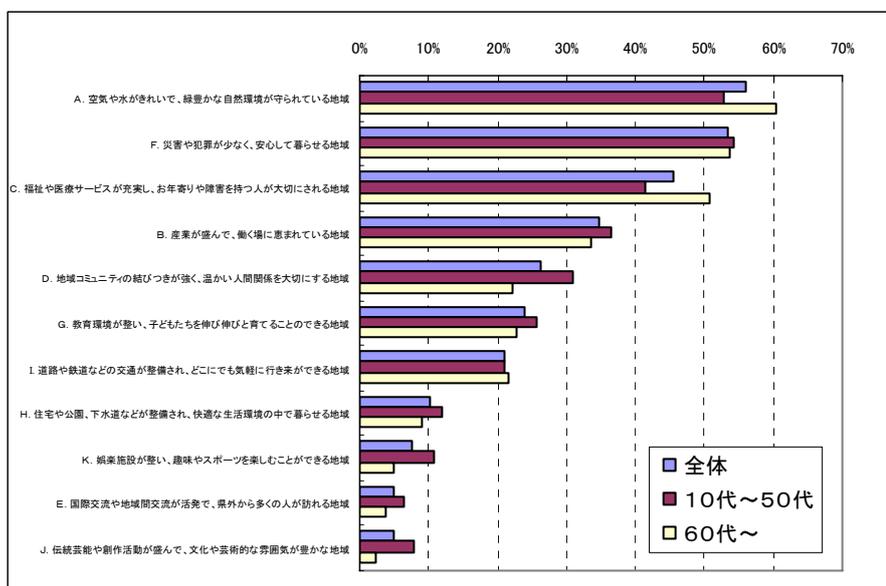
- ・ 年代別にみると、50代以下は「生活のための経済基盤」、「経済環境の悪化」などへの不安感が強く、一方、60代以上は「社会環境の変化」、「健康と福祉」などへの不安感が強い傾向がみられる。
- ・ 地域別にみると、町村部では「社会環境の変化」を懸念する人の割合が高い。

問 1 1 あなたが住みたい、もしくは次の世代の人に住んでほしい「2030年のふくい」はどのような姿が望ましいと思っていますか。〔当てはまるものを3つ選んでください。〕

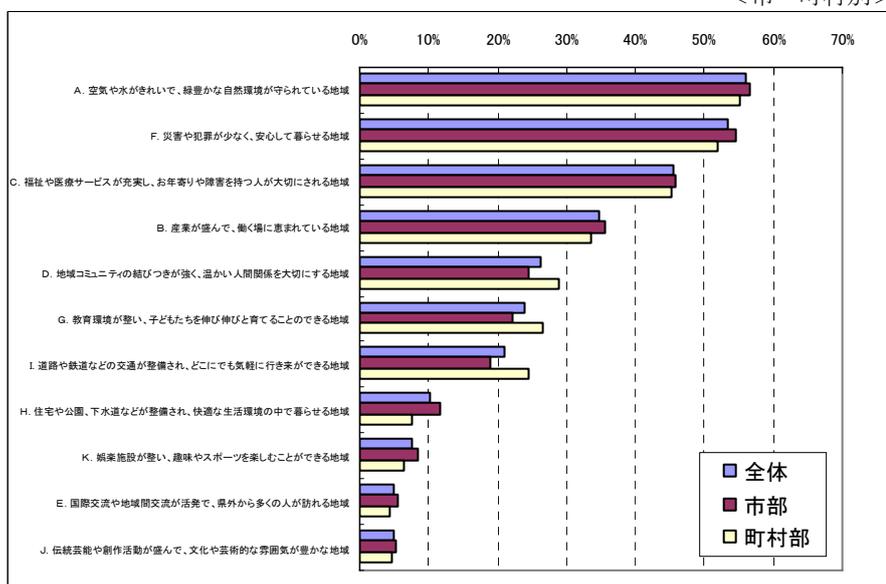
答

- A. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている地域 (583)
- B. 産業が盛んで、働く場に恵まれている地域 (361)
- C. 福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障害を持つ人が大切にされる地域 (474)
- D. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている地域 (272)
- E. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人を訪れる地域 (53)
- F. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる地域 (556)
- G. 教育環境が整い、子どもたちを伸び伸びと育てることのできる地域 (248)
- H. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らせる地域 (106)
- I. 道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる地域 (218)
- J. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気豊かな地域 (52)
- K. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる地域 (80)

<年代別>



<市・町村別>



■ 総論

- ・ 「豊かな自然環境が守られている地域」、「犯罪等が少なく安全・安心な地域」を望む人の割合が過半数を超えている。次いで、「福祉や医療が充実する地域」、「産業が盛んで働く場に恵まれている地域」が続く。
- ・ 一方、「国際交流や地域間交流が活発な地域」を望む声は非常に少なく、閉鎖的な傾向がうかがえる。

■ 各論

- ・ 年代別にみると、60代以上で「豊かな自然環境が守られている地域」、「福祉や医療が充実する地域」を、50代以下で「地域コミュニティの結びつきが強い地域」を望む傾向が強くなっている。
- ・ 地域別にみると、町村部で、「地域コミュニティの結びつきが強い地域」、「子どもたちを伸び伸び育てることのできる地域」、「道路や鉄道の交通が充実した地域」を望む傾向が強くなっている。

問12 「ふくい2030年の姿」に関する自由意見

(福井県立大学生、ふくいきらめきリポーターの意見を含む)

○ 人口減少・長寿社会

- ・ 安心して子どもを産み育てることが容易で、人口が増えるような県になってほしい。(鯖江市、60代男性)
- ・ 高齢者が安心して暮らせる福祉の充実を望む。(福井市、50代男性)
- ・ 子どもを持つということが怖い、自分の楽しみにもっとお金をかけたい、と思っている友達が周囲には多い。少子化と言われるが、条件さえ揃えば生みたいと思う人は多いのではないか。まずは労働条件、保育条件を整えることが先決である。(福井県立大学生)

○ グローバル社会

- ・ 25年後の敦賀市においては、海外、主にアジアに向けた事業が発展してほしい。敦賀では常設的なアジア各国物産展、アミューズメントパークなど、敦賀に来れば1日楽しく過ごせるような施設ができてほしい。(敦賀市、40代男性)

○ 地域社会と公共

- ・ 近隣相和し、互いに扶助しあうような社会、法律で縛るのでなく人間の本性に照らしてごく自然な道徳的社会であってほしい。(清水町、50代男性)
- ・ 老人も若人も世代を超えたコミュニケーションができる基盤作りが必要。(福井市、50代女性)
- ・ 1人暮らし老人が安心できる地域社会であってほしい。「となり」とのつきあいが希薄になって久しい今、人と人のつながりがもっと必要なこと、自分以外の人を敬愛することが必要なことを子どもに教えてほしい。(南条町、60代女性)
- ・ 何をしても政治に頼ることなく自分たちの地域は自分たちの力でやれることから始め、そこに無理があれば第二として行政へと考えるべき。(敦賀市、50代男性)
- ・ DV(ドメスティック・バイオレンス)の解決などにも必要だが、誰かに気軽に「助けて」と言える社会にすべきである。(ふくいきらめきリポーター)

○ 教育(人づくり)

- ・ 小中高教育での社会参加意識、道徳心の高揚と県民意識帰属心の発揚を望む。(永平寺町、60代男性)
- ・ じっくり自分の進路を考えさせることができるゆとりのある教育を望む。(丸岡町、30代女性)
- ・ 安心・安全・安定を目標に、子どもへの心の教育を大切にすべき。(鯖江市、40代女性)
- ・ 子どもの教育に関し、隣人が他の子供に対しても善悪を教えられる社会になってほしい。(福井市、60代男性)
- ・ かけがえのないすばらしい自然の恵みの中で、人にも自然にもやさしくあたたかい心を育てて思いやりの深い福井県人があふれるような世の中であることを願っている。(松岡町、60代女性)
- ・ 教育立県になってほしい。東京大学に負けないレベルの大学を幾つも作り全国に発信すれば当然人が集まってくるだろうし、活力も生まれるはず。(福井市、60代男性)
- ・ 子どもへの食育(子供が食の生産体験を通じてものの大切さ、生命の大切さ、労働の義務を習得していく)を重要視すべき。(福井市、50代男性)
- ・ 大学を出なくてもいろいろな生き方ができることを最近の若者は示してくれている。多様な生き方を認め、支援していく社会を目指すべきである。(ふくいきらめきリポーター)

○ 文化・伝統

- ・ 歴史文化的建造物の保存を図り、県民として誇りが持てるような県であってほしい。(福井市、50代男性)

○ 福井人気質

- ・ 福井の人は、なかなか自分の思っていることを口に出して言わないところがあるように思う。自分の意見を言い、人の話の聞ける人が多く育ってほしい。(勝山市、50代男性)
- ・ 福井県の人とは他県の人に比べてあまり自己主張しないが、反面、仕事は完璧にこなす勤勉性、まじ

めさがある。「県民性No. 1」、「いい人No. 1」、「(他人の) サポートNo. 1」、「トップや成功者の横には必ず福井人」を目指すべきである。(ふくいきらめきリポーター)

○ 産業・雇用

- ・ 地域コミュニティを基盤にしたコミュニティ・ビジネスで、地域内循環型経済が確立した福井県になってほしい。(今立町、50代男性)
- ・ 地場産業を福井ブランドとしてもっと他国へアピールすべき。(三国町、50代男性)
- ・ 地場産業の更なる発展を望む。(福井市、50代男性)
- ・ 福井県へ大企業を誘致して経済の活性化をすべき。これにより、若者の県外流出も防ぐことができるはず。(春江町、60代男性)
- ・ 若者が希望の持てる地域経済社会の構築をすべき。(福井市、50代男性)
- ・ 若者達にいろいろな職種選択ができる産業、仕事があるように願いたい。(美浜町、50代男性)
- ・ 地元の産業分野の拡充を図り、成長すれば地元で働けるといった安定した環境での末長い展望を県民の多くが持てる福井県であってほしい。(鯖江市、70代男性)
- ・ 働く意欲のある高齢者が働ける職場の充実が望ましい。(福井市、50代男性)
- ・ 昔は大家族で子育て機能があたりしたが、現在は核家族が多くなっている。昔に戻るのは無理だから、保育条件を整えるべき。職場の雰囲気も大事。子どもが熱を出したときに休ませてほしいと言いやすい職場になってほしい。(福井県立大学生)

○ 車社会

- ・ 交通網を制限し、「日本一不便な県」として売り出していくべきである。(福井市、50代男性)
- ・ 車依存型から脱皮し、低料金で利用できる公共交通網が充実し、交通弱者に優しい福井県になってほしい。(鯖江市、50代男性)
- ・ 公共交通機関の充実を図り、どこの地域についても便利な生活が出来る福井になってほしい。(名田庄村、50代男性)
- ・ 2030年には3割以上が65歳以上。田舎暮らしもよいが、やはり飛行機、鉄道いろいろあって気軽に移動できる環境が必要である。(ふくいきらめきリポーター)

○ 中心市街地

- ・ JR福井駅への自家用車乗り入れを禁止して、駅南の方へバスターミナルを作り、福井駅前から駅東口へ明るい地下道または歩道橋をつくる。福井県庁のお堀をより明るく、駅から良く見えるような駅前づくりを望む。(今立町、50代男性)
- ・ 駅前商店街へ行けば本当に買いたいものがある、見るだけでも楽しいとなれば、バスでもタクシーでも行くはず。(福井市、70代女性)
- ・ 嶺北、嶺南の格差を是正すべき。その上で、その地域の特色を生かしたトータルな整備をすべきである。(小浜市、40代男性)
- ・ 2030年には県庁は移転しているはずだから、その跡地に兼六園みたいな公園をつくるなど駅周辺に歩いて回れるような観光スポットができるといい。また、駅周辺で若者が集える場所、若い人が経営するショップがあるといい。これは行政と民が一緒になって進めていくべきである。(福井県立大学生)

○ 農村・自然環境

- ・ 現在の恵まれた自然環境を残し水と空気と自然溢れる福井県として観光の県になってほしい。また、農業を通して自給自足でき、自然の恵みを大切に健康で明るく暮らせる福井県を目指してほしい。(敦賀市、40代男性)
- ・ 地域でとれたものを加工、販売し、地域でまわしていくといった食の地域自給を実現すべきである。(福井市、50代男性)
- ・ 人が自然を利用するのではなく、人と自然が共生しているような福井県であってほしい。(宮崎村、40代女性)
- ・ 自然環境を守り、川や道路、又は山地、田畑等もコンクリートなどで固めず自然の石や木で整備した美しい福井県であってほしい。(丸岡町、70代女性)
- ・ 福井には海水浴のできる海、スキーのできる山など「レジャーの宝庫」である。傷ついた人を癒すなど、こうした自然環境を生かしてほしい。(ふくいきらめきリポーター)

○ 人口の移動

- ・ 福井の水、緑、山、海の環境の浄化に努め、福井に行ってみたくてと全国の人々が思うような努力が必要。25年後は現在よりももっともってIT化が進み、心の豊かさを求めるようになる。そういう人達にとっての全国唯一の癒しの県になってほしい。(上志比村、60代男性)
- ・ 田舎は田舎のまま自然の豊かな福井でいてほしい。町が好きな人は町へ出て行けばいい。でも、いつか福井へ帰りたくなるような2030年であってほしい。(永平寺町、40代女性)

○ 環境・エネルギー問題

- ・ 2030年頃には、中国やインドの経済発展が進み、エネルギー消費も増大して石油資源の枯渇が現実のものとなっているはず。同時に地球温暖化で洪水や酷暑も頻発していると予想される。したがって、福井県はこれらのエネルギー問題や環境問題を解決するための研究開発拠点となっているべき。(敦賀市、50代男性)
- ・ 現在のプラスチック製品を紙製などの容器などに変えていくべき。紙製も、環境問題に配慮したリサイクル紙にするなど、なるべく石油を使わずリサイクルもできるようなパッケージにすべき。(武生市、30代女性)
- ・ 現在は自然が多いが、2030年には悪化しているはず。残したい自然だけを残すのではなく、地域で自然を守る運動など身近なところから自然を守り育てるようにする必要があると思う。(福井県立大学生)

○ 安全・安心

- ・ 子供から老人までが安心して暮らせる犯罪の無い明るい社会と地域の連携がある地域になってほしい。(福井市、60代男性)
- ・ 社会環境の悪化の進行を緊急課題として抑制すべき。「振り込め詐欺」が横行する社会では自然が豊かになっても公共交通が便利になってもむなし。(福井市、60代男性)
- ・ 災害に強い町づくりや農山村づくりが重要。特に緑資源を大切にすることは不可欠であり、この豊かな自然を次代の子供達に引き継いでいくことが必要。(武生市、50代男性)
- ・ 福井は食べ物がおいしく、食品に対するクレームも少ない。安全・安心である。「自然の恵み日本一」を目指すべきである。(ふくいきらめきリポーター)

○ 生活圏・経済圏

- ・ 鉄道や空港を早く整備して、国外、県外の人や産業の交流を盛んにする事が望ましい。(福井市、60代男性)
- ・ 観光立県として滞在型レジャーへの脱皮を図り、県外への一層のPRをするべき。(福井市、50代男性)
- ・ 公共交通がもっと便利になり、他県から今よりたくさん旅行客が来るようになってほしい。(鯖江市、10代女性)

○ その他

- ・ 医療サービスや社会福祉が充実し、老人や障害者が生活しやすい社会にしてほしい。(清水町、50代女性)
- ・ 自然が美しく、食生活が豊かでお互いに思いやりがあり、誰もが住みたくなる長寿日本一の福井県であってほしい。(あわら市、70代男性)
- ・ 子供を安心して産める社会、育てられる環境、老後楽しく暮らせる環境であってほしい。(丸岡町、70代男性)
- ・ 雇用が安定し、家庭生活も豊かさが生まれると、子供もたくさん産み、育てることができる。子供の教育に専念する余裕があって、真剣に子育てすることができ、愛情のある家庭から健やかでたくましい子供が育成できる。優れた子供達がたくさんできて、立派な社会人が良い経済環境(社会)を作り上げることができる。「愛する我がまち・我が故郷」意識が浸透し、豊かで安心な社会構造が展開される。(清水町、50代男性)
- ・ 本音で生活ができ(思うことが言える)、生きていることが楽しい県になってほしい。(今立町、60代男性)
- ・ 女性が自己実現しやすい社会となっていてほしいと思う。(福井県立大学生)
- ・ 身体障害者も老人も在宅で生活していけるような福祉社会がいいと思う。(福井県立大学生)

「ふくい2030年の姿」検討会 検討経過等

○検討経過

2004年	4月30日	第1回検討会（知事とフリートーキング）	
2004年	5月～7月	2週間に1回程度の検討会 （福井豪雨のため一時中断）	
2004年	9月～12月	週1回程度の検討会	
2005年	1月～3月	週2回程度の検討会	計50回程度

○意見交換

（各種団体等との意見交換）

2004年	9月 5日	福井青年会議所・福井商工会議所青年部・福井経済同友会主催の「ふくい市民会議」に参加
2004年	12月22日	福井商工会議所青年部との意見交換
2005年	2月 9日	福井県立大学生との意見交換
2005年	2月15日	ふくいきらめきリポーターとの意見交換

（有識者との意見交換）

2004年	9月13日	島田晴雄氏（慶應義塾大学経済学部教授、内閣府特命顧問）、竹内佐和子氏（㈱投資工学センター代表取締役社長）との意見交換
2004年	10月30日	北川正恭氏（早稲田大学大学院公共経営研究科教授、前三重県知事）との意見交換
2005年	1月19日	土屋勉男氏（三菱総合研究所上席研究理事）との意見交換
2005年	1月25日	辻 琢也氏（政策研究大学院大学教授）との意見交換
2005年	1月31日	山田昌弘氏（東京学芸大学教授、内閣府「日本21世紀ビジョン」に関する専門調査会生活・地域ワーキンググループ委員）との意見交換
2005年	3月23日	福井県経済社会活性化戦略会議で議論

「ふくい2030年の姿」検討会 名簿

年齢順（2004年4月1日現在）

○20代

横山 裕子 総務部広報課主事
永田 僚子 福祉環境部児童家庭課主事

○30代

坂下 淳子 福祉環境部地域福祉課主査
牧野 憲嗣 農林水産部森づくり課主査
坂下 正人 産業労働部地域産業・技術振興課主査
武部 衛 総務部政策推進課主査
砂村 秀成 土木部政策推進グループ企画主査
久世東洋晴 県民生活部総合交通課企画主査
古田 秀雄 農林水産部農畜産課企画主査
服部 和恵 総務部財務企画課企画主査
宮下 裕文 福祉環境部福井健康福祉センター健康増進課長
平林 透 土木部道路保全課企画主査
猪嶋 宏記 県民生活部危機対策・防災課企画主査

○40代

白崙 淳 総務部政策推進課主任
戸田 勝徳 産業労働部政策推進グループ主任
江端美喜子 総務部政策推進課主任

(計16名)

— このようなメンバーで1年間検討してきました —

○男女構成 男性：11名 女性：5名
○平均年齢 35歳
○職種構成 事務職：11名 技術職：5名
○既婚者数 11名（子どもの数：平均1.5人）
○出身地 福井市：4名 敦賀市：1名 武生市：3名
小浜市：1名 大野市：1名 鯖江市：2名
松岡町：1名 上志比村：1名 池田町：1名
越前町（旧宮崎村）：1名

参考文献一覧

著者：アルファベット、五十音順

- エイミー・チュア（久保恵美子訳）『富の独裁者』2003年、光文社
ジェラルド・セレンティ『文明の未来 政治経済からビジネスまで』1998年、日経BP社
NHK放送文化研究所『現代日本人の意識構造〔第5版〕』2000年、NHKブックス
NHK放送文化研究所『中学生と高校生の生活と意識調査』2003年、NHK出版
NHK放送文化研究所『現代の県民気質—全国県民意識調査—』1997年、NHK出版
NIRA・シティズンシップ研究会『多文化社会の選択』2001年、日本経済評論社
NIRA『21世紀の新たなリスク』2004年、総合研究開発機構
ローレンス・J.（渡辺伸也訳）『ピーターの法則：創造的無能のすすめ』2003年、ダイヤモンド社
U F J総合研究所国土・地域政策部『ローカル・マニフェストによる地方のガバナンス改革』2004年、ぎょうせい
相原憲一『にぎわい文化と地域ビジネス』2004年、春風社
赤川学『子どもが減って何が悪い！』2004年、ちくま新書
足立尚計『風の俵（おもかげ）—福井の客人たち—』2001年、能登印刷出版部
安部誠治『これからの地域交通と地方自治体の責任』2003年、「運輸と経済（財）運輸調査局」4月号
荒川洋治『名短篇』2004年、新潮社
石橋湛山『石橋湛山全集』1970年、東洋経済新報社
市川嘉一『交通まちづくりの時代』2002年、ぎょうせい
いちぢひろゆき『都道府県の急所』2002年、新潮社
伊藤滋・真島一男『2025年のわがまち』2001年、ぎょうせい
稲沢俊一『戦後の福井県行政』2001年、地域公共政策支援センター
岩波書店編集部編著『これからどうなる21』2000年、岩波書店
上山信一『「行政経営」の時代—評価から実践へ—』1999年、NTT出版
宇都宮浄人『路面電車ルネッサンス』2003年、新潮社
遠藤演明『50年後の未来予測—科学技術による—』2004年、文芸社
大塚明子『新語死語流行語』2003年、集英社文庫
大原一三『2050年の日本—再生か衰退か—』2004年、東洋経済新報社
大平健『豊かさの精神病理』1990年、岩波新書
大淵寛・高橋重郷『少子化の人口学』2004年、原書房
大前研一『大前研一の一新塾』2000年、プレジデント社
大前研一『大前研一の一新塾 Part II』2001年、プレジデント社
岡田光世『アメリカの家族』2000年、岩波新書
岡本呻也『新日本人革命』2002年、講談社
岡本全勝『新地方自治入門—行政の現在と未来—』2003年、時事通信社
尾崎護『経綸のとき—小説三岡八郎—』1995年、東洋経済新報社
科学技術振興事業団『イラストで見る未来予測』2001年、科学技術振興事業団
加藤寛『ライフデザイン白書2004-05』2003年、第一生命経済研究所
印牧邦雄『福井県の歴史』1973年、山川出版社
菅野仁『ジメル・つなかりの哲学』2003年、日本放送出版協会
北嶋廣敏『ベスト10 ワースト10 わが県の実力番付』2003年、祥伝社黄金文庫
木村尚三郎『折り返し点からの発想—日本の突破口は何か—』1995年、PHP研究所
木村尚三郎・中村靖彦『農の理想・農の現実』2000年、ダイヤモンド社
草野厚『官僚組織の病理学』2001年、ちくま新書
熊沢誠『能力主義と企業社会』1997年、岩波新書
経済産業省『新産業創造戦略（本冊／概要版）』2004年、経済産業省
月刊ウララ編集部『夢への挑戦者たち』2004年、エアアンドエス
原子力安全システム研究所・社会システム研究所『データが語る原子力の世論』2004年、プレジデント社
玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安—揺れる若年の現在—』2001年、中央公論新社
国土交通省中部運輸局『平成15年度数字でみる中部の運輸』2004年、国土交通省中部運輸局
国立社会保障・人口問題研究所『都道府県別将来推計人口 2000年～2030年（平成14年3月推計）』2002年、財団法人厚生統計協会
国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計（全国推計）2000年～2025年（平成15年10月推計）』2003年、財団法人厚生統計協会
国立社会保障・人口問題研究所『日本の市区町村別将来推計人口 2000年～2030年（平成15年2月推計）』2004年、財団法人厚生統計協会
小林陽太郎・小峰隆夫『人口減少と総合国力』2004年、日本経済評論社
小松和彦・関一敏『新しい民俗学へ—野の学問のためのレッスン26』2002年、せりか書房
財団法人地域活性化センター『自立と協働によるまちづくり読本』2004年、ぎょうせい
財団法人東北産業活性化センター『伝統産業新時代！』2004年、日本地域社会研究所

財団法人福井県産業支援センター『福井県の経済（平成16年度版）』2005年、財団法人福井県産業支援センター
 堺屋太一『団塊の世代』1980年、文春文庫
 堺屋太一『中国大活用』2003年、NTT出版
 堺屋太一『東大講義録—文明を解く—』2003年、講談社
 堺屋太一『日本の盛衰—近代百年から知価社会を展望する—』2002年、PHP新書
 堺屋太一『平成三十年』2002年、朝日新聞社
 堺屋太一『未来への助走—「あるべき姿の日本」を求めて—』1999年、PHP研究所
 堺屋太一『歴史の使い方』2004年、講談社
 坂本光司・南保勝・杉山友城『データでみる地域経済入門』2003年、ミネルヴァ書房
 佐藤純一『文化現象としての癒し』2000年、メディカ出版
 サントリー不易流行研究所『大人にならずに成熟する法』2003年、中央公論新社
 サントリー不易流行研究所『時代の気分・世代の気分』1997年、NHKブックス
 サントリー不易流行研究所『ロストプロセス・ジェネレーション』2002年、神戸新聞総合出版センター
 社会資本整備研究会『社会資本の未来』1999年、日本経済新聞社
 社会保障審議会人口部会『将来人口推計の視点』2002年、ぎょうせい
 社団法人国土緑化推進機構『総合年表日本の森と木と人の歴史』1997年、株式会社日本林業調査会
 社団法人全国林業改良普及協会『現代林業』各年各号、社団法人全国林業改良普及協会
 社団法人日本経済研究センター『21世紀のキーテクノロジー課題と市場予測—』2003年、（社）日本経済研究センター
 税制調査会基礎問題小委員会『わが国経済社会の構造変化の「実像」について』2004年、内閣府・財務省・総務省
 西暦2050年委員会『西暦2050年の日本人へのメッセージ』2000年、日東印刷創立50周年記念出版
 全国データ愛好会『47都道府県なんでもベスト10』2002年、PHP文庫
 曾野綾子『透明な歳月の光』2005年、講談社
 園田英弘『流動化する日本の「文化」』2001年、日本経済評論社
 高橋徹『日本人の価値観・世界ランキング』2003年、中公新書ラクレ
 田中淳夫『日本の森はなぜ危機なのか』2002年、株式会社平凡社
 谷口正和『2010年革命—団塊の世代が会社から消える日—』2004年、講談社
 地域再生・ソリューション研究会『地域再生ロードマップ』2004年、ぎょうせい
 知的財産戦略本部『知的財産推進計画2004』2004年、内閣官房
 鶴謙一『環境立国日本の選択—道州制・生活大国への挑戦—』2003年、海象社
 土屋勉男・大鹿隆『最新日本自動車産業の実力』2002年、ダイヤモンド社
 津村節子『津村節子自選作品集1』2005年、岩波書店
 寺島実郎『一九〇〇年への旅—あるいは、道に迷わば年輪を見よ』2000年、新潮社
 寺島実郎『歴史を深く吸い込み、未来を想う』2002年、新潮社
 暉峻淑子『豊かさとは何か』1989年、岩波新書
 童門冬二『横井小楠と由利公正の新民富論』2000年、経済界
 中村洋一『ゼロ成長の日本経済—2025年の経済構造を読む—』1998年、日本経済新聞社
 西村幸格・服部重敬『都市と路面公共交通』2000年、学芸出版社
 日戸浩之・塩崎潤一『続・変わりゆく日本人—生活者—万人にみる日本人の価値観・消費行動—』2001年、野村総合研究所
 「21世紀日本の構想」懇談会『21世紀日本の構想報告書』2000年、内閣官房
 日本経済新聞社『2020年からの警鐘—日本が消える—』1997年、日本経済新聞社
 日本経済新聞社『2020年からの警鐘②—怠慢な日本人—』1997年、日本経済新聞社
 日本経済新聞社『2020年からの警鐘③—「終わり」からの出発—』1998年、日本経済新聞社
 「日本の食生活全集福井」編集委員会『聞き書福井の食事』1987年、農山漁村文化協会
 農林水産省総合食料局食料企画課『我が国の食料自給率—平成15年度食料自給率レポート—』2004年、農林水産省
 農林水産省大臣官房統計情報部『2000年世界農林業センサス』2002年、財団法人農林統計協会
 博報堂生活総合研究所（中村恭子・原田曜平）『10代のぜんぶ』2005年、ポプラ社
 橋本卓爾・大西敏夫・藤田武弘・内藤重之『食と農の経済学』2004年、ミネルヴァ書房
 馬場茂明『“医職住遊学のまちづくり” 21世紀の健康文化都市戦略』1997年、プリメド社
 浜田和幸『2001—3000』2000年、株式会社イーストプレス
 林道義『家族の復権』2002年、中央公論新社
 隼田嘉彦・笠松雅弘・末廣要和・木村亮『福井県の百年』2000年、山川出版社
 隼田嘉彦・白崎昭一郎・松浦義則・木村亮『福井県の歴史』2000年、山川出版社
 東倉洋一『22世紀への手紙—生命・情報・夢—』2001年、NTT出版
 久本憲夫『正社員ルネサンス：多様な雇用から多様な正社員へ』2003年、中央公論新社
 平尾俊郎『二十年後—くらしの未来図—』2004年、新潮社
 福井県『福井県史（通史編〔近現代二〕、資料編〔統計〕、年表）』1996年、福井県
 福井県産業の活力強化に関する調査研究委員会『福井県産業の活力強化に関する調査研究』2004年、福井県立大学地域経済研究所
 福井新聞社『20世紀ふくい群像（上・下）』1999年、福井新聞社
 福井新聞社『7. 18福井豪雨報道記録集』2004年、福井新聞社

藤本隆宏『日本のもの造り哲学』2004年、日本経済新聞社
 古田隆彦『人口減少社会のマーケティング』2003年、生産性出版
 古田隆彦『人口減少日本はこう変わる』2003年、PHP研究所
 文藝春秋『日本の論点2005』2004年、文藝春秋
 文藝春秋『文藝春秋』2005年4月号、文藝春秋
 堀尾輝久『教育入門』1989年、岩波新書
 松井孝典『宇宙人としての生き方—アストロバイオロジーへの招待—』2003年、岩波新書
 松井睦『一目でわかる業界シェア&市場規模2004年版』2003年、日本実業出版社
 松下圭一『政治・行政の考え方』1998年、岩波新書
 松谷明彦『「人口減少経済」の新しい公式』2004年、日本経済新聞社
 松谷明彦・藤正巖『人口減少社会の設計』2002年、中公新書
 ◎情報取材班『県民性で謎を解く儲けの法則』2004年、青春出版社
 三浦展『検証 地方がヘンだ!』2005年、洋泉社
 宮川公男『2025年の世界と日本』1998年、東洋経済新報社
 宮川努『2025年の日本経済』2002年、日本経済新聞社
 宮本みち子『若者が《社会的弱者》に転落する』2002年、洋泉社
 宮脇淳『公共経営論』2003年、PHP研究所
 未来生活懇談会『生活大航海、未来生活への指針—未来生活懇談会報告書—』2002年、内閣府
 村上龍『13歳のハローワーク』2003年、幻冬舎
 森田朗・大西隆・植田和弘・神野直彦・荻谷剛彦・大沢真理『分権と自治のデザイン』2003年、有斐閣
 森永卓郎『「カネ」はなくとも子は育つ』2004年、中公新書クラレ
 森永卓郎『「所得半減」の経済学』2004年、徳間書店
 諸富祥彦『子どもよりも親が怖い』2002年、青春出版社
 文部科学省科学技術政策研究所『第7回技術予測調査 調査結果(概要・総論)』2001年、文部科学省科学技術政策研究所
 八代尚宏『2020年の日本経済』1995年、日本経済新聞社
 八瀬清志・長井寿・矢野智昭・平田豊・宮本宏・松宮輝・佐藤康雄・松本英次・的川泰宣『技術と自然の未来を探る』2004年、新日本出版社
 矢野恒太記念会『日本国勢図会2004/05年版』2004年、矢野恒太記念会
 山口定・神野直彦『2025年日本の構想』2000年、岩波書店
 山田昌弘『希望格差社会』2004年、筑摩書房
 山中英生・小谷通泰・新田保次『まちづくりのための交通戦略』2000年、学芸出版社
 山本貴代『ノンパラパラサイトしない女たちの「本当」—』2001年、マガジンハウス
 山本久義『ルーラル・マーケティング論』1999年、同文館
 山本昌弘『キャリアアップの投資術：専門職大学院でスキルを磨く』2003年、PHP新書
 横田順弥『100年前の20世紀』1994年、ちくまプリマーブックス
 吉南通康・折茂賢一郎『現代地域医療のパラダイム』1999年、株式会社みらい
 読売新聞校閲部『データでよむ47都道府県情報事典』2003年、中公新書ラクレ
 脇坂明『日本型ワークシェアリング』2002年、PHP新書

福井新聞・日刊福井(日刊県民福井)・朝日新聞・毎日新聞・日本経済新聞・中日新聞の各新聞社『1980年新聞縮刷版』
 国の各種統計書、白書

福井県の各種統計書、計画書、報告書

(その他、本報告書中の図表等に使用した文献等の出典は文中に記載)